

大阪インターナショナルチャーチ ゲストスピーカー：ブラッドフォード・ハウディシエル  
ルカ 19：10、1 ペテロ 3：9

2022/09/11

### 説教題：「ゆるし」

鍵となる聖句：

ルカ 19：10 「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

1 ペテロ 3：9 「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

皆さん、お早うございます。またお会いできて嬉しいです。今日は、聖書の中心的トピックである赦しについてお話しします。今日のメッセージに関する2つの主題聖句があります。

ルカ 19:10 で イエスは彼の重要な使命を告げています。－「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

そして1 ペテロ 3：9 で私たちが、私たちの仲間の人間同士が関係を持つ重要な方法を語っています。－「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

今日、赦しの二つの面についてお話しします。

私たちが神からの赦しを経験して、初めて本心に立ち返り、神が意図された本来あるべき姿に戻ります。これは、私たちが、神の国において、どの様に生きるべきか、つまり互いに祝福を受け継ぎ、生きることです。

神の家族の中に入れられた後の私達に、二つの基本的側面に重要な生活原則が与えられている：神との交わり（上下）、他の人との交わり（横）を保つためのものである。これらの生活原則には、例えば聖書の学び、祈り、聖霊に満たされ続けること、罪の告白、そして互いに赦しあうことを日々行うという事である。私たちは、頻繁には「赦し」について話す事はない。しかし、今日は、その事についてお話ししたいと思います。「赦し」は単に神と自分自身と、あるいは自分自身と他者と関係を保つだけではなく、もし私たちが神の方法に従うなら私たちのものにもなると言う他の素晴らしい祝福もあります。

聖書は、人には罪（原罪）があると語っている。しかし本当に人に罪があるかどうかと疑問に思う人もいるだろう。2013年8月22日の10年ほど前のThe Japan Newsという新聞に面白い記事を見つけた。Vice Fundという投資信託についての新聞記事である。Viceの意味は「悪で」ある。記事には、このように書かれていた：「アメリカのバイス・ファン（Vice Fund）と呼ばれる投資信託は、リーマン・ショックに見舞われた2008年を除き、好

調な成績を維持している…。このバイス・ファンドは、アメリカのテキサス州ダラスで設立された投資信託で、投資対象となる企業は、人間の悪習慣や強欲が連想されるような商品やサービスの提供者である。時として「罪への投資」と呼ばれる。人間には、悪いと知りつつも止められない何かがあるのを見越した投資信託である。この投資信託は、営業成績が好調であると書かれていた)。

これを見ても分かるように、自分の力ではどうにも止められないものが人にはあるようだ。パウロもローマ 7:15 でこう言っている「私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。」私自身、イエスに出会う前しばしばこの問題で苦しんでいた。2-3週間前、聖書中の「罪」と言う言葉は、「罪」とは的外れな生き方、そして神に背を向けて生きる、ということに使うと話した。罪は人間のあらゆる活動の邪魔をする。神に背を向けているとき、それらの人間活動が、悪い方向に行くようだ。しかしそれ以上のものが罪の結果としてある。罪の故に、私たちの人生を失っている状態であると聖書は言う。

ローマ 6:23 「罪から来る報酬は死です。しかし神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです」そうです、神に背を向けている時、人間は真の命が失われている状態にあると聖書は言う。

聖書で使われている「ゆるし」の意味を簡単に説明しよう。

旧約聖書で「ゆるし」として主に3つのヘブル語訳がある。3つの動詞形：

- ①カーファル (拭《ぬぐう》う、おおう、あがなうの意味。(詩篇 78 : 38))
- ②ナーサ (「取り去る」の意味。創世記 50 : 17)
- ③サーラハ (去らせる、「解放する」の意味。王上 8 : 30、レビ 4 : 20) (原意は不明)

これらの用語を見ると、自分では達成できないので、誰かが私たちの為に、それをしてくれると言うような印象を与える。「ゆるし」の為に私たちが必要としているのは、私たちと神との溝が大きいことを示している。そのために、神自らが、私たちから、その罪を取り去ることを意味している。罪が取り除かれた時、神と人との関係が回復される。私たちが、命の源である神と再びつながる時、神が以前に、私たちにために計画された、すべての祝福に預かることができるようになることを意味する。

新約聖書における「ゆるし」を見てみよう。使われるギリシャ語の単語の主なものは：

1. アフェシス (赦免、釈放の意味) が主なものである。

聖餐式のときの聖書箇所、「これは罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である」(マタイ 26 : 28) がしばしば読まれるが、ここの「赦し」という言葉は、負債の免除 (無罪放免になる)、刑罰の赦免 (しゃめん) に使われる。牢獄から解放される人に用いる用語である。

この言葉は、神の自由 (一方的な) なる恵みと憐れみが強調されている。キリストの贖い

によって、負債、つまり私たちが犯した罪が免除されるということにつながる。イエスは、罪を赦す権限を与えられた解放者として神から遣わされたので、イエスご自身が罪のゆるしを宣言される。マルコ 2 : 5 で「あなたの罪はゆるされた」とイエスは言われる。使徒 4 : 12 に「ほかのだれによっても、救いは得られません。私たちが救われるべき名は、天下にこの名のほか、人間には与えられていないのです。」とある。

この無条件の神の愛により、「ゆるし」にあずかった者は、隣人を赦すことが望まれる。マタイ 6 : 12、主の祈りの中に「私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。」にある。マタイ 18 : 21 の中にも「そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度まででしょうか。」がある。私たちの兄弟を赦し続けなさいと言う意味である。

この聖書の教えは、命の言葉であり、恵みの言葉である。神から私たちの罪を赦され、自分が解放され祝福されるためだけでなく、お互いに祝福を受け継ぐこともできる。1 ペテロ 3 : 9 「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」

聖書から「ゆるし」の物語を見るが、まず、ザアカイの物語から始めよう。

ザアカイ Zacchaeus : エリコの取税人の頭だった。大いなる富を持ちながらも同胞からつまはじきにされていた。イエスがエリコを通られた時に、イエスの愛に接して回心し、その家庭にも福音がもたらされた。

ルカ 19 : 1 - 10 を読もう。「<sup>1</sup>それからイエスは、エリコにはいって、町をお通りになった。<sup>2</sup>ここには、ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。<sup>3</sup>彼は、イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。<sup>4</sup>それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじく桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたからである。<sup>5</sup>イエスは、ちょうどどこに來られて、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ。急いで降りて來なさい。きょうは、あなたの家に泊まることにしてあるから。」<sup>6</sup>ザアカイは、急いで降りて來て、そして大喜びでイエスを迎えた。<sup>7</sup>これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行つて客となられた。」と言つてつぶやいた。<sup>8</sup>ところがザアカイは立つて、主に言った。

「主よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれからでも、私がだまし取つた物は、四倍にして返します。」<sup>9</sup>イエスは、彼に言われた。「きょう、救いがこの家に來ました。この人もアブラハムの子なのですから。<sup>10</sup>人の子は、失われた人を捜して救うために來たのです。」

福音書で言われる取税人は、税金の取立てをした集金人のことである。彼らは、ローマ帝国の税金取立ての請負人の手先であった。これらの地方取税人たちは、しばしばローマ政府へ納める金額以上に、できる限りより余分なお金を地方の民から絞り集めていた。そこ

で、彼らの多くは、ユダヤの民衆からのけ者にされていた（マタイ 9：10-13）、また非難を受けていた（マタイ 21：31）。このような訳で、彼らはユダヤ人社会の仲間入りも出来ず、多くの人々は、そのような男たちと友人となることさえ嫌がられた。けれども、このイエスの愛を知って、ザアカイやマタイのように取税人の中でイエスを信じたものも少なくない。

もう一度ルカ 19：1-10 を 1 節ずつ見よう。

- 1 節 エリコ。皆さんはエリコを覚えているでしょう？ヨシュア記でエリコはイスラエルが最初の征服した町である。そしてマタイとルカの福音書にある。
- 2 節 その町に、ザアカイは住んでいた。取税人の頭で、金持ちだった。
- 3 節 イエスがどのような方かを見ようとした。多くの群集がいたようだ。恐らくザアカイは自分の罪深さを知っており、それで救いを求めているのだろう。イエスの噂も聞いていたであろう。
- 4 節 背が低いザアカイは、イエスをよく見るためにいちじく桑の木に登った。その時、丁度イエスが通り過ぎようとしておられた。大の大人が木に登るだろうか？彼はよっぽどイエスを見たかったのだろう。
- 5 節 イエスは、ザアカイの名前をご存知だった。さぞかし嬉しかったであろう。のけ者にされていた自分に有名なイエスが、しかも名前までご存知だった。もちろん取税人の頭なので有名かもしれないが。  
それに「家に泊まることにしてある」（新改訳）と言われた。これは神の決められた Divine Appointment、神の決められた予約であった。ザアカイは自分がイエスに受け入れられたことを知った。
- 6 節 大喜びのザアカイは、イエスを迎えた。その喜びは大いに想像できる。
- 7 節 人々の反応を見れば、人々の否定的な反応が分かる。
- 8 節 いまやイエスに受け入れられたと知ったザアカイは、自分の罪に正直に直視できた。それは、自分の罪と決別することができる。  
そこでザアカイは何をすべきかが分かった。  
ユダヤの規定からすると、「盗み」にたいして 4 倍を償い返すというのはかなり多い（レビ 6：5、民 5：7）。レビ記には、盗んだ物とその 5 分の 1 を返すと記されているからだ。ザアカイは本当に変えられたことがこの行動で分かる。
- 9 節 このザアカイの回心の応答に対して、イエスは「救いがこの家に来た」と宣言された。ザアカイはイエスに（心が）触れられて変えられた。イエスは、ザアカイもアブラハムの子と言う。それは、彼が真のユダヤ人だと言う。  
アブラハムの血統としての子孫（神の選民）というだけでなく、アブラハムの信仰の足跡に歩む者（ローマ 4：12）。ユダヤ人の社会ではのけ者にされていたが、イエスはザアカイが取税人にもかかわらず、人としての必要があることに気が付かれた。
- 10 節 「人の子」はルカ書の鍵になる言葉。これは、キリストのタイトルとして使われた。「人の子」というタイトルは、①人間の代表として人類の罪を背負って、②その罪のためにあがなうことのできる人であり、③イエスはよみがえりの初穂である。ローマ 4：25 では「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるた

めに、よみがえられたからです」。この「よみがえられたからです」とは、イエスが罪の負債を全て払い終えたことを意味する。いえすが、私たちの罪（死）の征服者として勝利されたことを意味する。

捜すこと、救うことは、イエスの最も重要な側面である。イエスは、救い、永遠の命（ルカ 18：18）、そして神の国（18：25）へ、神と共に歩くことへと人々を導くためにこの地上に来られた。これらを人間に与えたいことは、神から人への願いである。この 10 節に要約されている。

罪がゆるされ、受け入れられた時、人は自分の価値を見出し、何をすべきかを知ることが出来る。こうして神が造られた人間の本来あるべき姿になると私は理解している。ザアカイは、その信仰によって、真の命を与えられ、神と共に歩み始めた。赦された人がどのように生き始めるかをザアカイから見る事ができた。

次は、周囲の人がどうあるべきかを見てみよう。

ヨハネ 8：3 - 11 にある姦淫の現場で捉えられた女性の話を見てみよう。

ヨハネ 8:3-11 「<sup>3</sup>すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひとりの女を連れて来て、真中に置いてから、<sup>4</sup>イエスに言った。「先生。この女は姦淫の現場でつかまえられたのです。<sup>5</sup>モーセは律法の中で、こういう女を石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」<sup>6</sup>彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。<sup>7</sup>けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こして言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」<sup>8</sup>そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。<sup>9</sup>彼らはそれを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり残された。女はそのままそこにいた。<sup>10</sup>イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はなかったのですか。」<sup>11</sup>彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」】

律法学者とファリサイ人は、イエスを告発する理由を得るために「モーセの律法では、こういう女を石で打ち殺すように命じています。あなたは何と言われますか」と質問した。イエスは何も答えず、何かを地面に書いておられた。彼らが問い続けるのでイエスは身を起こして言われた「あなた方のうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」それを聞くと年長者から始めて、一人一人出て行き、イエスひとりが残された。女はそのままそこにいた。

10-11 節を読む。

<sup>10</sup> イエスは身を起こして、その女に言われた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。」

あなたを罪に定める者はなかったのですか。」

「彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」

その女性に「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません」と言われた。

この短い言葉に、赦しと、これからの生き方に対する教えがある。この女性はどれほど救われただろうか。死刑から赦しと命へと移されたのだから。

イエスは誰も責めなかったが、一人一人去って行ったことから、彼らの心に、そしてその女性の心にも語られたのが分かる。①裁くことが出来るのは誰なのか、②自分はどういうものであるのか、③正しいこととは何なのかを教えた。この3つを心に語られた。

集まってきた人々は、自分たちの手でこの女性を裁こうとした。私たちは、腹が立つとき、憎しみがある時、自分が正しいと思って、自分が裁判官の行動をとっていないだろうか？人びとの上の裁判官にならず、むしろ神の御手にその物事を任せなさい。これが「赦し」である。我々のすべきことは、裁くことではなく、赦し合うこと、つまりそれは愛を実践することである。

では、もっと身近な例をお見せしよう。

この例は、クリスチャンではない。しかし人間らしい生き方を始めることができた人についてである。

何年も前、私の妻はTVのドキュメンタリー番組で深く感銘した。それは、サリンガスで東京の地下鉄を攻撃したカルトグループのメンバーの一人についてだった。林邦夫受刑者の話であった。

NHKスペシャルだと思うが、妻と私は、その番組の中のある女性の言葉に深く感銘を受けた。またその後の林受刑者の生き方にも感心した。たとえどんなにひどい状況で会っても、人間らしく生きる機会を与えられることはどれほど素晴らしいことかと感動したのだ。

そのドキュメンタリー番組では次のように語られていた。「林受刑者は自分のしたことを深く反省し、死刑を当然のこととして覚悟していたようだ。そこに被害者の家族の一人の女性が証言台に立った。彼女は、林被告が深く反省しているのを見て、林被告を赦そうと思った。彼女のひと言で、林被告は、死刑から無期懲役になった。」

死刑執行には色々と議論があるが、丁度それと同じ頃、妻は、他の死刑囚の話を見た。その他の死刑囚の話では、彼はただ狂気したように死を望んでいた。

このことは、ペテロとユダの違いを思い出させた。二人とも主を裏切った。ペテロが「主

を知らない」と言った言葉は聖書的に言うとかかなり恐ろしい発言である。しかしペテロは自分の罪を認め、神はゆるす方であることを知っていたので、神にゆるしを請うた。その後ペテロは、主のまことの弟子となり、友となり、主のために彼の生きるべき行程を歩んだ。一方ユダは、同じように自分の罪の重さに苦しみ、死を選んだ。自殺したのである。すべては神のご計画であったが、彼は、神がゆるすことの出来るお方だと気が付かなかったのだろう。

実は「ゆるし」の背後にあるのは愛の関係である。ユダはイエスと生活を共にしていた。イエスがどのような方かを知っていたはずである。実はサタンも悪霊たちも神がどのような方かを知っており、最後の日の裁きを恐れている。彼等はそれを恐れているが、神に赦しを乞うことをしない。神を知っていることと、神を愛することとは全く異なる。ペテロは、イエスを愛する故に、イエスと関係が無くなることには耐えられなかったので、悔い改め、イエスに赦しを求めたと、私は思う。しかしユダは、そうではなかったのだ。

神は人間が悔い改めて、神に来ることを望んでおられる。神はどんな人も滅びることは望んでおられないからである。エゼ 33 : 11 で「生きることを選ぶように」と神は語っているのを思い出す。

林氏は自分のしたことの重さに気が付き、死刑を望んだが、その後彼は、自分たちのために犠牲になった人たちのすべての名（3000 人程だと聞いた）を覚え、毎日それらの名を念仏で唱えているそうだ。

死刑を求めて死んでいった受刑者達も多くいる中で、私の妻は、少しの間でも人間らしい生き方が出来るこの人を見て学んだ。たった一人の被害者家族の言葉「彼を赦します」が、彼に人間らしく生きる機会を与えたのだと感銘を受けたのだ。重荷を背負って生きることは辛いことだが、それもまた人間らしい生き方の一つでもあると思う。私の妻は、もちろん、彼にも本当の神からのゆるし、救い、そして平安を受け取ってもらいたいと願っていると言う。

今の林氏の生き方だけでは、聖書が教えているような、神の求めておられる本来あるべき姿とは言えないが、彼に人として生きる機会を与えたことは間違いない。互いにゆるしあうことはこんなに豊かな人生を持つことが出来る。このゆるしの背後には「愛」がある故に、豊かな人生へと導く。一日でも早く、一人でも多くの人々がこの神の愛に触れるように、神が願っておられ、私自身もそう願っている。

次に、皆さんに質問をさせて欲しい：赦さない人はどのような生き方をするのだろうか？ 苦いもの、不安、怒りがあふれ出る生き方をするのではないだろうか？ 深い傷を負ってしまふと、その相手をゆるすことは難しい。これは聖霊の導きと力が必要だ。それは会の成る部分。私達がする部分、或いは出来る部分と言った方がよいのだろうか、それはただ「ゆるそう」と決心すればよいことである。そして一歩足を踏み出そうとする時、奇跡が

起きる。聖霊が働いてくださる。ヨシュアとイスラエルの民がヨルダン川を渡る時に起きた奇跡のようなことが起きる。雪解け水で川の水かさが増えていたが、祭司たちが、一步、川に足を踏み入れたとたん、水の流れが止まり、彼らはヨルダン川を渡ることができた。私たちのすることは、決心すること、そして足を踏み出すことである。

また、心の傷が癒されるための効果的な薬は「相手をゆるすこと」である。ゆるしは、相手の人生も祝福するが、自分の心にも自由と平安、そして癒しをもたらす。神の教えは、いつも完全で、すべてのものに平安と祝福をもたらす。

最初にお話ししたことに戻ろう。今日のテーマである。

私たちが神のゆるしを体験した後、私たちが造られた目的に戻ることができる：神の似姿である。それは神が、最初に私たちに意図されたものである。これは、互いに祝福を分かち合う神の国で、私たちがいかに生きるべきかである。

神の教えはいつもこのようである：自分だけが祝福されるのではなく、周囲を祝福に祝巻き込んでいく。

ゆるしは関係回復だけでなく、互いを成長させ、さらに豊かな人生の歩みを与える恵みの法則である。この素晴らしい贈り物に対して神に感謝している。